

教育の質向上委員会主催 研修会報告

「精神看護学実習情報交換会（第2弾）」

（教育の質向上委員会）

牧野耕次、大平幸子、佐藤史教、奥野裕子、富川順子、
河野あゆみ（副委員長）、松田光信（委員長）

【はじめに】

精神看護学実習は、他の看護専門領域と比較して学生が不安を抱きやすいことから、教員の教育的支援が重要であると言われている。また、今日の地域包括ケアの時代にあっては、精神障害者の地域生活を支える施設での実習を多くの教育機関が取り入れはじめ、教員は実習施設の拡充や教育方法の工夫など、様々に創意工夫している現状がある。

そこで教育の質向上委員会では、各看護基礎教育機関における精神看護学実習の概要・取り組み・課題などを共有し、参加者が相互に精神看護学実習の充実を目指すことを目的として、昨年度に引き続き、2025年3月15日に情報交換会を開催した。本稿は、その研修会終了後に実施したアンケート調査の結果を報告するものである。

【情報交換会の概要】

本会は、日本精神保健看護学会会員および精神看護学教育に関心のある看護師を対象に実施した。方法は、オンライン開催とした。日時は2025年3月15日（土）14:00～16:00とした。

【アンケート調査の方法】

アンケート調査は、研修会終了後、Google フォームを用いて無記名で実施した。実施内容は、基本属性（参加者の年代、経験年数、勤務場所）と研修内容に関する評価（関心度、満足度、役立ち度）、学びや感想に関する自由記述とした。研修内容に関する評価は、いずれも4件法で行い単純集計した。

【結果】

研修会への事前申込者は、32名であったが、当日の参加者は17名であった。アンケート有効回答者数は14名（回答率25.6%）であった。

1. 参加者の概要

1) 年代

年代は、30歳代の参加者が6名（43%）と最も多く、30歳代と40歳代の参加者を合わせると半数以上を占め、50歳代の参加者数を加えると90%以上を占めていた（図1）。

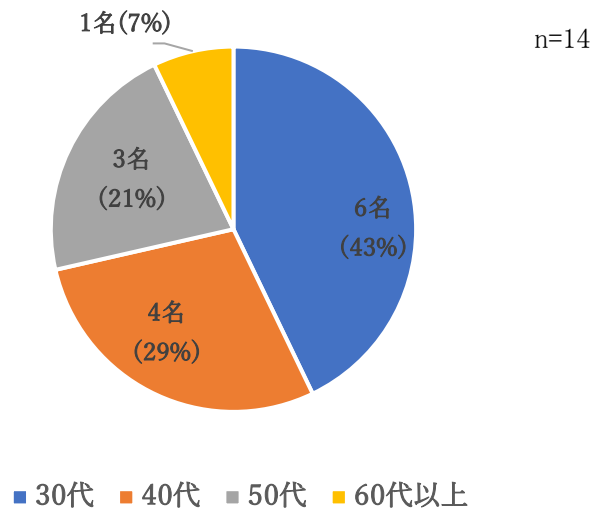


図 1.参加者の年代

2) 経験年数

経験年数は、1 年未満および 5～10 年未満、その他と回答した参加者は各 1 名（各 12%）、3～5 年未満と回答した参加者は 2 名（14%）、10～20 年未満と回答した参加者が 5 名（各 36%）であった。20 年以上と回答した参加者は 4 名（29%）であり、経験年数 10 年以上の参加者が過半数を占めていた（図 2）。今回のアンケート調査では、単に経験年数を尋ねており、教育経験年数が看護師経験年数も合わせたものかは不明である。

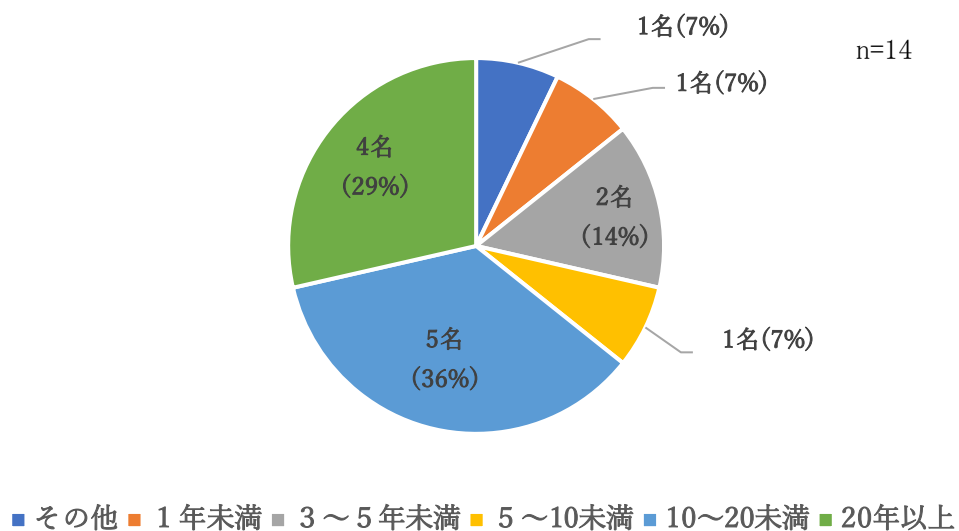


図 2.経験年数

3) 勤務場所

勤務場所は大学等教育機関が12名(86%)とほとんどを占めていたが、精神科で勤務している看護師の参加も2名(14%)みられた(図3)。

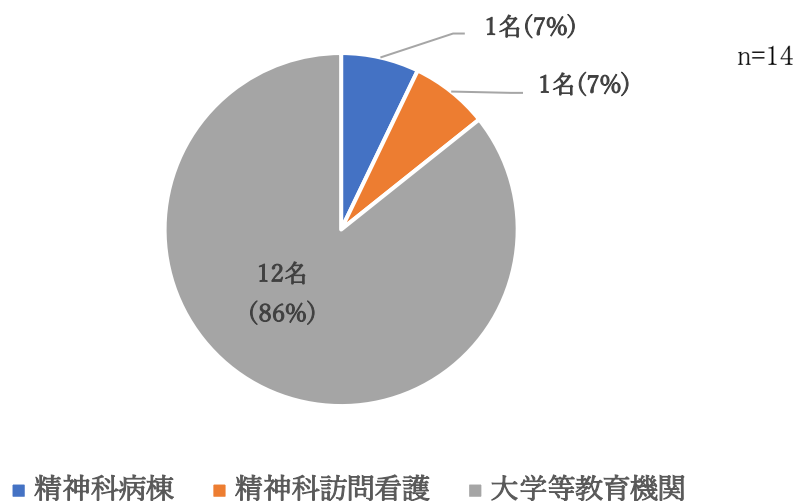


図 3.勤務場所

2. 研修内容に関する評価について

1) 関心度

研修内容に関する関心度では、参加者の全員が「非常に関心がある」、「やや関心がある」と回答していた(図4)。

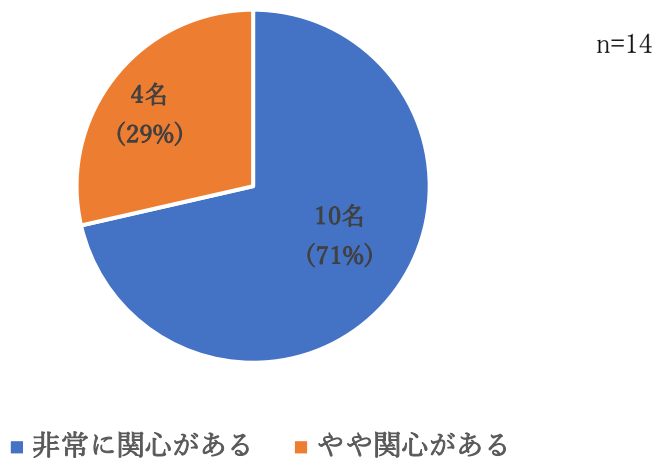


図 4.関心度

2) 満足度

研修内容に関する満足度では、参加者10名（71%）が「非常に満足している」と回答しており、残り4名（29%）が「やや満足している」という回答であった（図5）。

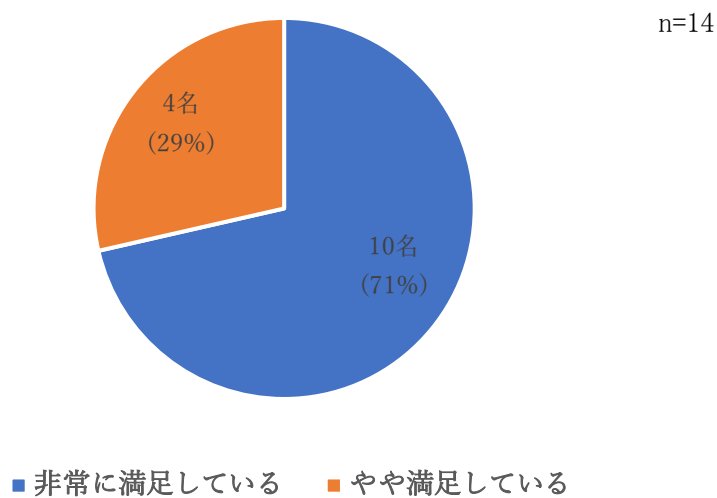


図 5.満足度

3) 役立ち度

研修内容に関する役立ち度では、参加者11名（79%）が「非常に役に立つ」、3名（21%）が「やや役に立つ」と回答していた（図6）。

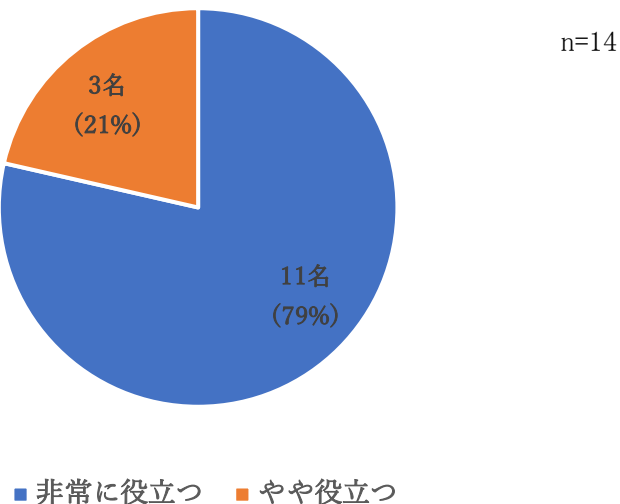


図 6.役立ち度

4) 自由記載の結果 (一部)

<学びと感想>

- ・ コミュニケーションを苦手とする学生が増えているが、失敗も次の学びに繋げられるように支援することの大切さを学んだ。
- ・ 他大学でどのように実習が運営されているのかを知ることができ、今後役に立つと感じた。
- ・ 自身の考えや思いが、他の方も感じていることがわかり、安心感や自信につながった。
- ・ 学生自身のストレングスをみるという話が出ており、改めて学生指導をしていく上での重要な部分を振り返る機会になった。
- ・ 実習記録を電子化されている先生から、具体的な話が聞けて参考になった。
- ・ 感じている課題や困難は共通点が多く、皆さんそれぞれ悩みながら対応されていることがわかり、自分もがんばろうと思えた。
- ・ 自分のやっている実習や現状をきちんと言語化できる力がもっと必要だと課題も見つかりました。
- ・ 学内での話し合いや議論だけでは閉鎖的に感じることから、様々な先生方や臨床の方の意見が聞ける機会はとても貴重だと思う。ぜひ、今後も継続的にあれば大変うれしい。
- ・ 自由なディスカッションが良かったです。
- ・ 気になるトピックを扱う講義も勉強になるが、今回のような参加型の研修会は参加者が顔を合わせて話し合えて刺激になる。

<今後の要望>

- ・ もう少しディスカッションの時間を長くするか、テーマを細分化してそれぞれが興味のあるグループに入って話し合えると深化した話し合いができるのではないかなと思う。
- ・ 土日にオンラインで参加できることで、仕事と家事の間に参加できてとても助かった。
- ・ 専門看護師の研修実績にできるよう、修了証などを発行してほしい。
- ・ 今後もこのような会を開催するなら、ぜひ対面開催にしてほしい。
- ・ 実習に関するグループ討論会は今後も行ってほしい。
- ・ 臨地実習と地域実習の連動性をテーマに、知識の修得とグループワークを行う機会を設けてほしい。

【まとめ】

参加者の経験年数は、10年以上の経験者が全体の65%を占め、3～10年未満の参加者も一定数おり、幅広いキャリア層の情報共有の場となっていた。勤務先は、参加者の大多数が大学などの教育機関に所属しており、一部に精神科勤務の看護師も含まれ、教育と臨床の視点が混在することで、情報共有や議論の多様性と深まりがみられたと考えられる。

研修内容の評価としては、すべての参加者が「非常に興味がある」「やや興味がある」と回答し

ており、精神看護学実習に対する情報ニーズの高さがうかがえた。満足度は、「非常に満足している」が70%以上で、残りが「やや満足している」という結果から、内容と運営に対する総合的な満足度は高かったと評価できる。役立ち度も、79%が「非常に役に立つ」、21%が「やや役に立つ」と回答しており、教育現場において有用な内容であったと考えられる。

自由記載の学びと感想には、ストレングス（強み）を活かす指導への共感や、失敗を成長に変える支援の重要性の再確認、あるいは実習記録の電子化など他大学の取り組みが刺激となったことが述べられていた。また、同じ悩みを抱える教員との交流が安心感や自信につながったこと、講義形式とは異なる参加型形式が刺激的で有意義であったことが述べられていた。今後の要望としては、修了証の発行や研修会の継続といったニーズがあることを知ることができた。また、開催方法については、オンラインの利便性を評価する声と、対面開催を希望する声が共存していた。

今回の情報交換会は、参加者から高い満足度と役立ち度が示された。今後は、研修テーマに応じた開催方法の工夫に加えて、修了証の発行なども含めた研修会の体制を整備する必要がある。また、社会の動向や会員のニーズに対応しながら、精神保健看護の教育の質向上を目指す必要があると考える。